

K00U研究支援人材の資質向上WG/研究データ管理・活用WG合同ワークショップ資料（2025）

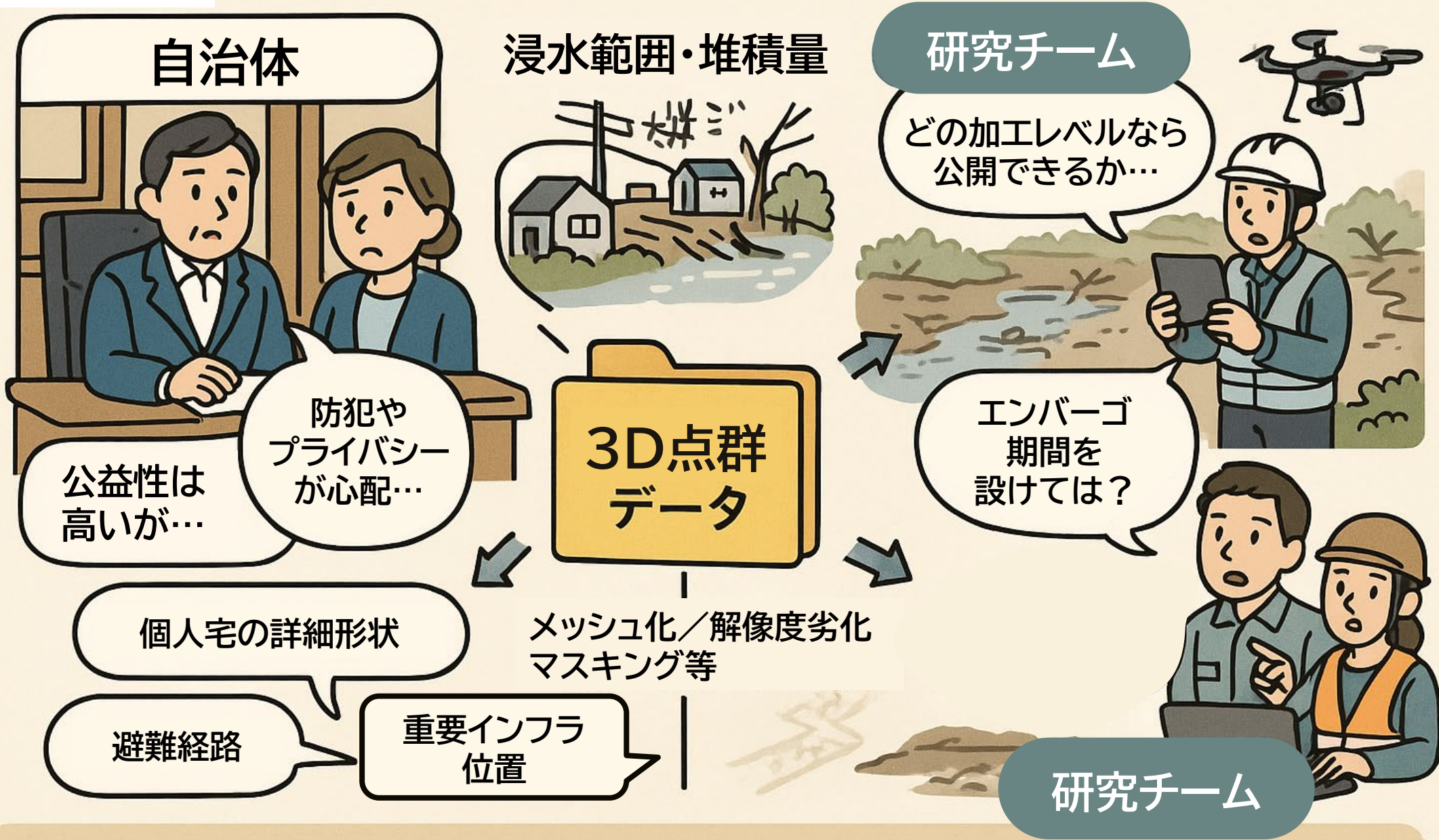
九州大学附属図書館

九州大学データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門

<https://hdl.handle.net/2324/7440576>

出版情報：2025-12-11
バージョン：
権利関係：





早期公開と防犯・プライバシーへの配慮、品質維持を
どのように両立させるか？

Day2-A Case3 被災地ドローン LiDAR 点群データの社会公開

大きな水害が発生した直後、土木系の研究チームは自治体(市役所など)から依頼を受け、ドローンを飛ばしてレーザーで地形を測る調査(ドローン LiDAR 測量)を行った。

その結果、水がどこまで広がったか、どれくらい土砂が堆積したかを計算するのに役立つ、とても細かい「3次元の点の集まりのデータ(3D 点群)」が得られた。

研究チームは、このデータを復興計画づくりや将来の防災研究に役立ててもらうため、できるだけ早く公開したいと考えている。

しかし、このデータには、個人の住宅の形状が細かく分かる情報、実際に使われた・または想定される避難経路、電気・ガス・水道などの重要な設備(重要インフラ)の位置情報などが、かなり高い解像度で含まれている。

自治体は、「防災や復興のために役立つという点で公益性は高いが、一方で空き巣などの手がかりになったり、住民の生活が詳しく見えてしまったりする防犯・プライバシー上の懸念がある」として、公開には慎重な姿勢をとっている。

どうすれば、このデータを復興や防災に広く役立てられるだろうか。

このケースでは、データの加工、制限公開、利用条件などが主な論点となる。